



茨城インプラント研究会

The Ibaraki Society of Implantology

平成22年度

学術講演会 抄録

－プログラム－

9:40～ 10:50	臼歯部欠損にインプラントを用いた全顎修復処置症例 安藤 智也 (安藤歯科医院)
11:00～ 12:15	インプラントのボーンマネージメント –Seeing is believing– 岡田 裕行 (岡田歯科医院)
13:30～ 16:30	パノラマ X 線写真に見られる悪性腫瘍のレントゲンサイン 歯科 X 線検査における放射線被曝のリスク：歯科医師が知っておくべき正しい知識 倉林 亨 (東京医科歯科大院・医歯学総合研・口腔放射線医学分野 教授)

平成22年11月23日 (火曜祝日)

茨城県歯科医師会館



臼歯部欠損にインプラントを用いた全顎修復処置症例

安藤歯科医院（水戸市）

安藤 智也

インプラントが歯科に応用され、失った機能の回復を可能にする術式として、我々一般臨床家にも広く用いられるようになった。

「インプラント治療を行う上で最も大切なことは何であろうか？」

今やインプラント治療はただ単に埋入すれば良いというものではなく、長期にわたって口腔内で機能し、審美性・清掃性までもが期待される時代となってきている。インプラント治療を成功に導くには、術前の診査・診断、上部構造のイメージ化、手術計画（埋入本数、深度、傾斜角、骨造成や骨削除の必要性など）の立案、サージカルガイドによる手術、プロビジョナライゼーション、再評価、最終上部構造のセット等、多岐にわたる項目を慎重に検討しなければならない。

今回は、臼歯部にインプラントを応用し、全顎を補綴修復した症例を通してインプラント治療における診査・診断の重要性、トップダウントリートメント、CT 診断、サージカルガイドをキーワードに症例の解説をしたい。

Keyword : CT 診断、サージカルガイド

【演者略歴】

2000 年 日本大学松戸歯学部 卒業
2000 年 東京都文京区 氷川下セツルメント歯科 勤務
2004 年 東京都港区 寺西歯科医院 勤務
2008 年 茨城県水戸市 安藤歯科医院 開業
現在に至る

所 属 茨城インプラント研究会
スタディーグループ赤坂会
東京 SJCD
Hermit Study Group 他



インプラントのボーンマネージメント

- Seeing is believing -

岡田歯科医院（つくば市）

岡田 裕行

日本においてインプラント治療を行う歯科医院数は、韓国の 70%に及ばないまでも全歯科医療機関数の 20%に達しようとしている。インターネット上には、インプラントに対する様々な情報が溢れている。このような現状の中で、患者側は一度埋入したインプラントが、長期間にわたり機能維持していくことが、当然のことのように考えている。

インプラント埋入後、口腔内でインプラントを長期間にわたり機能させるためには、インプラントメーカーやインプラントの種類を選択よりも、私たち術者側の診断能力や実際の埋入技術の優劣等が、大きく影響してくると言われるようになってきている。長期的に良好な予後を得るためには、いろいろなファクターが介在するが、今回はその中で骨のマネージメント、特に骨増生について臨床の中で行っている術式を供覧したい。

同じように骨増生を行ったにもかかわらず、インプラントのオッセオインテグレーションに違いがでた症例を提示し、良好な予後を得るためにはさらに何が必要なのかを、これらの症例を通して、本講演会に参加している先生方とともに考えてみたい。

【演者略歴】

1980 年 日本大学松戸歯学部 卒業
1980～81 年 日本大学松戸歯学部保存Ⅲ教室（歯内療法講座） 在籍
1981 年 岡田歯科医院 開設
1989 年 組織変更し医療法人社団誠善会 開設
現在に至る

所 属 茨城インプラント研究会
American Academy of Periodontology (AAP)
Academy of Osseointegration(AO)
International Association of Dental Traumatology
European Association of Osseointegration(EAO)
日本歯周病学会
日本臨床歯周病学会
日本インプラント学会



東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科
口腔放射線医学分野 教授
倉林 亨

パノラマ X 線写真に見られる悪性腫瘍のレントゲンサイン

顎口腔領域に生じる悪性腫瘍の早期発見、診断において、我々歯科医師の果たす役割は大きい。歯科医院を受診する悪性腫瘍症例のうち、X 線写真上で顎骨の骨破壊像を認めるものとしては、歯槽粘膜に由来する歯肉癌（扁平上皮癌）、顎骨内の上皮巢から生じる顎骨中心性癌、身体他部位の悪性腫瘍の転移による転移癌、上顎洞粘膜に由来する上顎洞癌等が挙げられる。これらの悪性腫瘍では、歯肉癌を除けば、口腔粘膜に何ら異常所見が見られない場合も多く、X 線写真を正しく読影することの重要性が一層強調される。

本講演では、パノラマ X 線写真の読影の基本について述べると共に、同写真に見られる悪性腫瘍の特徴的なレントゲンサインについて、症例を供覧しながら解説する。

歯科 X 線検査における放射線被曝のリスク

— 歯科医師が知っておくべき正しい知識 —

歯科臨床において、X 線検査は直接見ることでできない歯や顎骨の深部の状態を知る上で欠かせない検査法である。現在全国のほとんどの歯科医院には口内法およびパノラマ X 線撮影装置が設置されており、これらの装置を用いて患者さんに対する X 線検査が日常的に行われている。また最近では、特に歯科インプラントの治療計画のために、全身用 CT（マルチディテクターCT）や歯科用コーンビーム CT も広く利用されるようになってきた。X 線はエネルギーの高い電離放射線であり、人体に対して有害であることは良く知られているが、歯科診療の中で用いられる X 線検査の被曝について、すべての歯科医療従事者が十分な知識を持っているとは必ずしも言えないようである。

本講演では、我々歯科医師が知っておくべき放射線被曝の知識についてわかりやすく解説する。主な内容は以下のとおりである。①放射線の性質、②確率的影響と確定的影響、③口内法およびパノラマ X 線撮影による被曝のリスク、④全身用 CT および歯科用コーンビーム CT による被曝のリスク、⑤妊娠中の被曝（胎児に対する影響）、⑥自然放射線による被曝

【演者略歴】

1985~1994 年 東京医科歯科大学 助手
1994~2000 年 東京医科歯科大学 講師
2000~2003 年 東京医科歯科大学 助教授
2003 年 東京医科歯科大学 教授
現在に至る

所 属 日本歯科放射線学会（理事）
日本医学放射線学会頭頸部研究会（幹事）
日本口腔腫瘍学会（評議員）
口腔病学会（理事）
International Association of Dentomaxillofacial Radiology (Active Member)
American association of Oral and Maxillofacial Radiology (Active Member, Editorial board)
日本画像医学会（評議員）
日本口腔科学会（評議員）

【協賛企業】

(会社名順)

相田化学工業株式会社

アサヒプリテック株式会社

アストラテック株式会社

株式会社アドバンス

株式会社アルタデント

株式会社岩瀬歯科商会

株式会社インプラント・イノベーションズ・ジャパン

ケーオーデンタル株式会社

ケンテック株式会社

コアフロント株式会社

シロナデンタルシステムズ株式会社

株式会社松風

株式会社ジーシー

ストローマン・ジャパン株式会社

スリーエムヘルスケア株式会社

株式会社ソニックテクノ

デンツプライ三金株式会社

ノーベル・バイオケア・ジャパン株式会社

株式会社白鵬

株式会社ビーブランド・メディコーデンタル

株式会社モリタ

株式会社ヨシダ

株式会社 WACCORD